

1. 研究活動

『ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学の再構築—生成と流動の教育学のために』 (博士論文)	2012. 3	京都大学大学院教育学研究科	従来の教育学は、ヘーゲルの弁証法を思想的起源とする発達を基本概念として造形されてきた。しかし、変容論理にはヘーゲルの弁証法と別に、それとは異質なニーチェの価値転換の論理と、弁証法を極点まで推し進めたバタイユの留保なきヘーゲル主義とがある。この両者のそれぞれを思想的起源として生成と再生という諸概念を考えることができる。こ
---	---------	---------------	--

			<p>の生成は、例えばアルルで人間ゴッホが独自の様式をもった真の意味での芸術家ゴッホになる超人間化として歴史的に立ち現れる変容概念であり、再生は遊びを通して脱自し新しい私に生まれ変わる覚醒体験として具体的に立ち現れる変容概念である。本稿では、ヘーゲル、ニーチェ、バタイユの思想を参照項としながら、ドゥルーズ＝ガタリのシステム論を教育学的に読み替え再構築することによって、発達と生成と再生という相互に次元を異にする諸変容概念を基軸とした「生成と流動の教育学」を作り上げることを目指す。この教育学は、従来の教育学が生成と再生という諸変容概念を正しく捉えることに失敗している点でその教育学を全面的に批判し、それに取って代わり得る新たな理論なのである。</p>
「ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学的再構築のための総括とプログラム」	2012. 3	『名古屋芸術大学研究紀要』第 33 巻 pp.343-354.	京都大学より学位を授与された博士論文「ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学的再構築—生成と流動の教育学のために」とともに提出した論文要旨に、引用参考文献をつけたもの。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

3. 学会等および社会における主な活動